

災害事例

事故の型	墜落、転落	起因物	地山、岩石
発生状況	杉の間伐作業において、作業者がかかり木を放置したまま別の立木(高さ18m、胸高直径23cm)を伐倒したところ、伐倒木がかかり木に接触し、当該かかり木が近くにいた被災者に激突したものの。		
原因	<p>伐倒の作業を行う場合において、伐倒の合図を行わなかったこと。</p> <p>伐倒の作業を行う際に、他の労働者の退避などの確認が不十分であったこと。</p> <p>かかり木をそのまま放置し次の作業を行ったこと。</p> <p>間伐作業において、伐倒方向のずれ等によりかかり木が生じやすいにもかかわらず、くさびを使用しなかったこと。</p> <p>決定した伐倒方向と受け口及び追い口の作り方で決まる伐倒方向とにずれが生じていたこと。</p>	対策	<p>伐倒の作業を行う場合には、伐倒の合図を行うこと。</p> <p>伐倒の作業は、他の労働者が退避したことを確認した後に行うこと。</p> <p>かかり木となってしまったときには、そのまま放置せずに、早期の処理を行うこと。</p> <p>間伐作業においては、伐倒方向を確保するためのくさびの使用を行うこと。</p> <p>決定した伐倒方向に対応する適切な受け口及び追い口を作ること。</p>

